



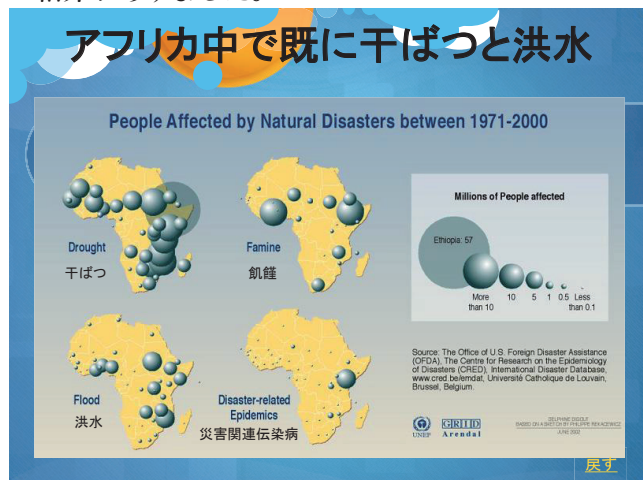
第4回ちきゅうCafé、第2回ちきゅうEnglishを開催

昨年秋から開催してきた「ちきゅうCafé」は、1月27日に第4回「アフリカから見た温暖化問題」を開催し、参加者は14名でした。2月24日には第2回「ちきゅうEnglish～読んで話す環境英語の会～」を開催し、参加者は6名でした。「ちきゅうEnglish～読んで話す環境英語の会～」は、「ちきゅうCafé」に参加している若手メンバーの発案により実現した企画で、いわば「ちきゅうCafé」のスピノフ企画です。第1回は昨年12月13日に「English Discussion Night!」として開催しましたが、このたびイベントタイトルをあらため、開催していくことになりました。

第4回ちきゅうCafé

このまま地球温暖化が進行すれば、最も深刻な被害を受けるのは、小島しょ国やアフリカ諸国であると言われます。

第4回ちきゅうCaféでは、国連から派遣され、アフリカの国々で環境コンサルタントとして活動されてきたCASAボランティアの古家明子さんが、アフリカでの4年にわたる経験から、現地のエピソードを交えて話されました。アフリカではすでに干ばつ・洪水が増加し、更に飢饉や伝染病の発生をもたらししていることが紹介され、気候変動リスクに対する適応の度合いが低いと、他のどの大陸よりも気候変動の影響にさらされており、その将来が脅かされていることなどの紹介がありました。



第4回ちきゅうCafé 古家さんのプレゼンテーション資料より

つづいて、綿谷美恵さんよりインドネシアについてのお話がありました。綿谷さんは、2014年4月1日～8月29日の5ヵ月間、サティヤワチャナ キリスト教大学付属小学校で日本文化を教えた経験から、インドネシアの現状や子どもたちについて紹介がありました。国内では大気汚染が問題になりつつあり、その理由の1つとして2輪車・4輪車ともに急激に販売台数を伸ばしてきたことが考えられていること、総人口に対して若者人口の割合が高い国なので、教育を通して若い世代へのアプローチが必要だと感じたなどのお話がありました。

現地で撮影してこられた写真をふんだんに使ったプレゼンテーションで、一度も現地に行ったことがなくても、聴いていてイメージしやすく分かりやすい内容でした。

第2回ちきゅうEnglish

～読んで話す環境英語の会～

「ちきゅうEnglish」は、毎回、地球温暖化に関連するテーマであらかじめ読み物を決めておき、当日は「英語で読んで、英語でディスカッションする」というスタイルで実施しています。第1回では、European Environment Agency (EEA) が発行している年次雑誌の2014年度版「Signals 2014 Well-being and the environment」から、35～39ページ、「Litter in our seas」(海洋ゴミ)について読み、ディスカッションしました。第2回では、2015年9月に掲載された、グリーンピースの再生可能エネルギー100%へのシナリオ「Here's how the world can get to 100% renewable energy」を取り上げ、ディスカッションしました。

「ちきゅうEnglish」で取り上げる読み物については、事前にCASAフェイスブックページで案内します。英語で話す機会を探していらっしゃる方、日本語情報だけでなく英語の情報にもあたってみたいという方、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

土田 道代 (CASAスタッフ)